

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月14日現在

機関番号：12101

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2014～2018

課題番号：26101001

研究課題名（和文）古代アメリカの比較文明論

研究課題名（英文）Comparative studies of Ancient American Civilizations

研究代表者

青山 和夫（Aoyama, Kazuo）

茨城大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：70292464

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 38,600,000円

研究成果の概要（和文）：本領域研究は、人文科学と自然科学の多様な研究者が集い、新たな視点や手法による共同研究を推進して、古代アメリカの比較文明論の新展開を達成した。年縞の計数に基づく高精度編年を確立し、航空レーザー測量を用いた地形の把握と考古遺構の探索に成功した。古代アメリカ文明を資源化するという行為は、植民地時代以降の中南米で行われているだけでなく、メソアメリカとアンデスにおいて先スペイン期から行われた。本領域研究は温故知新の言葉通り、現代の中南米諸国における歴史認識の刷新、古代アメリカ文明を資源とする芸術的創造、産業化、観光振興、国民の文化的アイデンティティの形成、中南米の地域的アイデンティティの形成に寄与する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来はテーマ毎の比較考古学研究はあっても、メソアメリカ文明とアンデス文明が個別に研究される傾向が強かったのに対して、本研究は旧大陸の文明の影響を受けずに発達した一次文明の特性や社会変動を多面的に比較し、人類の文明の多様なあり方を明らかにする。研究対象とする時代を先スペイン期に限定するのではなく、植民地時代や現代の中南米の人々が古代文明を資源化して再解釈するのを示し、古代アメリカの「文明の終焉」の概念を批判的に検討する。世界史における諸文明の共通性と多様性を再認識し、従来の西洋中心的な文明史観では得られない新しい歴史的知とバランスの取れた「真の世界史」・「真の文明史」の構築に大きく寄与する。

研究成果の概要（英文）：Our project "Comparative studies on Ancient American Civilizations" carries out an innovative study on Mesoamerican and Andean civilizations by means of a collaboration between a variety of human and social scientists, including archaeology, history and cultural anthropology, and natural scientists. We carry out LiDAR survey around the site of Ceibal, Guatemala, and Nasca, Peru, to provide a complete view of how the archaeological remains were distributed over the landscape. We also provide refined chronological frameworks based on precise varve counting and high-precision C-14 dating. Our project contributes to a better historical understanding in Latin American countries, artistic creation and industrialization, and tourism development as a resource created by means of Ancient American civilizations, as well as a formation of national and regional identities in Latin America.

研究分野：人類学としてのマヤ文学・比較文明論

キーワード：古代アメリカ文明 比較文明論 考古学 歴史学 文化人類学 自然科学的編年 歴史的教訓 国際研究者交流

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

#### 1. 研究開始当初の背景

西洋人の侵略・植民地化によって「敗者」となった古代アメリカの二大文明は、歴史の表舞台から消され、後世に及ぼす影響が過小評価されている。メソアメリカとアンデスでは、先スペイン期から現代までの先住民の研究が通時的に結び付けて論じられることは少ない。考古学、歴史学、文化人類学の研究は専門化・細分化され、各研究分野の研究者間の交流がほとんどない。今なお学術研究と一般社会の間の知識の隔たりは大きい。「歴史は勝者によって書かれる」としばしば言われるが、本領域研究は、主に「勝者」の西洋人によって理解され、語られてきたメソアメリカ文明とアンデス文明を新たな視点や手法によって見直す。両文明に関する既存の研究の限界としては、(1)メソアメリカ文明とアンデス文明が個別に研究されてきたために、旧大陸の文明の影響を受けずに発達した一次文明としての両文明の特性や社会変動が比較研究によって十分に検討されてこなかった、(2)北半球で確立した世界標準の年代目盛が、アンデス地域のような南半球の低緯度では10数年ほどずれるために、メソアメリカ文明とアンデス文明の通時的比較研究に困難が伴う、(3)研究対象とする時代が、スペイン人の侵略以前のいわゆる先スペイン期に限定されており、古代アメリカ文明の後世への影響が考慮されていない、という3点が挙げられる。

#### 2. 研究の目的

本領域研究の目的は、①精密な自然科学的年代測定法や古環境復元によって、メソアメリカとアンデスの高精度の編年を確立し環境史を解明する、②精密な編年をもとにメソアメリカ文明とアンデス文明の詳細な社会変動に関する通時的比較研究を行う、③植民地時代から現代まで、メソアメリカとアンデスの文明が中南米の先住民文化に及ぼした影響を「古代文明の資源化」をキーワードに検証することである。さらにこれらの成果をもとに導かれる文明研究の今日的意義を探究する。

#### 3. 研究の方法

本領域研究は、精密な編年をもとにメソアメリカ文明とアンデス文明という、一次文明の詳細な社会変動に関する実証的かつ基礎的な通時的データを収集して比較研究し、実証的かつ多面的に検証する。計画研究 A02 と計画研究 A03 では、それぞれグアテマラとペルーで初となる航空レーザー測量によって、マヤ文明のセイバル遺跡の都市全体と周辺地域及びナスカ台地と周辺地域の考古遺構の空間分布を広範に調査する。本領域研究は、古代文明の詳細な社会変動を解明するだけでなく、古代文明に関する情報が、植民地時代から現在までの中南米の先住民文化に及ぼす影響を「古代文明の資源化」をキーワードに考察する。こうして後世の人間が資源として活用する古代アメリカ文明という視点を提示し、文明研究の今日的意義を明確にする。

#### 4. 研究成果

総括班のメンバーは、各研究項目の連携や計画研究と公募研究の調和を図るために以下の項目を実施した。

##### (1) 領域全体の研究方針の策定と企画・調整

研究組織のデータベースとメーリングリスト(ML: 総括班、各研究項目別)を採択直後に作成し、適宜更新しつつ密接に連絡を取り合った。

##### (2) 研究活動の監督と連携の強化

個々の研究項目の成果のとりまとめで終わらせず、領域としての研究を推進・発展させていくために総括班は、領域会議(研究者全体集会)を毎年度1回の計5回主催した(表1)。研究代表者、研究分担者、連携協力者、研究協力者が研究成果を発表して議論を深め、各研究項目の連携を深めた。公募研究の研究代表者と領域の設定目的の共通理解に努めるために、公募研究期間中の領域会議に参加してもらい研究項目と公募研究の調和を図った。各研究項目間の連携をより密接かつ円滑にするために、総括班は、研究項目間の公開合同研究会を計5回主催した(表2)。領域の全メンバーが参加する領域会議と比べて、より少人数のメンバーが詳細なデータを含む長めの研究発表を行い、より綿密な議論を重ねて共同研究を推進できた。

##### 表1 領域会議:研究者全体集会一覧

第1回領域会議:H26年10月19日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)  
第2回領域会議:H27年6月7日、国立民族学博物館(吹田市)  
第3回領域会議:H28年6月19日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)  
第4回領域会議:H29年7月2日、国立民族学博物館(吹田市)  
第5回領域会議:H31年2月17日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)

##### 表2 研究項目間の公開合同研究会一覧

①研究項目 A02・A04 公開合同研究会、H26年12月20日、専修大学(東京)、「テオティワカン国家形成の考古学的研究」、「切り拓かれるべき自然、包み込む「自然」:カンクン・ホテルゾーンの遺跡公園の見せ方から考える」

②研究項目 A02・A04 公開合同研究会、H27年12月20日、慶応義塾大学(東京)、「エルサルバド

ルにおけるコミュニティ考古学の実践と課題:住民による遺跡発見、調査、価値の創出、そして活用まで」、「パラグアイにおける伝統工芸:ニヤンドティ(蜘蛛の糸)の資源化について」

③研究項目A02・A03公開合同研究会、H28年1月23日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)、「古代アメリカの比較文明論の新展開に向けて:メソアメリカ・アンデス比較文明論試論」

④研究項目A02・A03・A04公開合同研究会、H30年3月29日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)、「メソアメリカとアンデス:文字、図像と公共建築」

⑤研究項目A01・A02・A03・A04公開合同研究会、H30年7月7日、専修大学神田キャンパス(東京)「17世紀ペルー北部海岸地域における先住民首長と先住民文明:土地整理composición de tierrasをてがかりに」、「ペルー・ワロチリの民族誌・歴史文書・遺跡」、「歴史的記述における相対主義/実在論:特にアーサー・ダントの「物語論」に則して」、「先史アンデス社会における視線の物質化と生産」

### (3) 研究成果のとりまとめ・公表と社会還元

領域発足直後にウェブサイトを立ち上げた。総括班は、領域の公開講演会を計4回主催した(表3)。

#### 表3 領域の公開講演会一覧

第1回公開講演会「古代アメリカの比較文明論:メソアメリカとアンデス」

H27年6月6日、国立民族学博物館(吹田市)

第2回公開講演会「マヤ文明とアンデス文明の最新調査:過去から現代まで」

H28年6月18日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)

第3回公開講演会「メソアメリカとアンデスの古代文明と現在」

H29年7月1日、国立民族学博物館(吹田市)

第4回公開講演会「古代アメリカの比較文明論:過去から現代まで」

H31年2月16日、キャンパス・イノベーションセンター東京(東京)

### (4) 研究成果の総括と評価

総括班は、計16回(H26年7月、12月、1月、H27年6月、1月、2月、H28年6月に2回、9月に2回、1月、H29年6月、7月、H30年4月、2月に2回)の総括班会議を開催し、領域の企画調整、各研究項目の研究の成果や進展状況を報告し、意見交換と評価を行った。総括班は、必要性に即応してウェブ会議やML持ち回り会議を開催した。個々の研究項目の活動(調査・分析・発表など)を迅速に把握し、研究項目間の連携を強めた。領域代表者の青山はペルーのナスカ台地の北のラ・ベンテーヤ遺跡の発掘調査でA03研究代表者の坂井と意見を交換した。坂井とA04研究代表者の鈴木は青山が実施するセイバル遺跡の発掘調査に立ち会い、比較研究を推進した。青山と坂井は、A01のメンバーによるセイバル遺跡近郊の湖沼調査に立ち会い、文明の盛衰と環境変動の因果関係を検証するために議論を重ねた。中南米での研究項目A01調査と研究項目A02、A03の共同研究、研究項目A02、A03の共同研究、研究項目A02、A04の共同研究など、各研究項目の連携を強化して共同研究を実施した結果、効率的な領域運営を実現できた。特に日本と比べると治安が悪くスペイン語が公用語のグアテマラとペルーにおける研究項目A01の調査では、長年の調査経験から現地の状況を周知している研究項目A02とA03の研究代表者の青山と坂井が、調査地の選定や現地での調査活動、さらに試料の輸出などで全面的に協力し、いずれの地域でも良好な試料を得ることができた。

### (5) 若手研究者の育成

本領域研究に参加した大部分の研究者は中堅・若手であり、本領域研究を推進することによって、当該領域における人材育成に繋がった。本領域研究に参加中の若手の研究者のうち10名が常勤、5名が任期付の研究職を得た。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計266件)(査読有134件)

1. マキロップ, ヘザー, 青山和夫「古典期マヤ文明の魚の加工と塩:ベリーズ南海岸パインズ・クリーク製塩遺跡群のチャート製石器の使用痕分析」『古代アメリカ』21:27-38, 2018, 査読有.
2. 青山和夫, バルバラ・アロヨ, ヘンリー・ロドリゲス「マヤ高地の黒曜石製石器とカカオの加工:グアテマラ高地カミナルフユ遺跡の実験使用痕研究」『古代アメリカ』21:89-101, 2018, 査読有.
3. McKillop, Heather and Kazuo Aoyama Salt and Marine Products in the Classic Maya Economy from Use-wear Study of Stone Tools. *Proceedings of the National Academy of Sciences National Academy of Sciences* 115(43):10948-10952, 2018, 査読有.  
<https://doi.org/10.1073/pnas.1803639115>
4. Lohs, Jon C., W. Derek Hamilton, Mark Brenner, Jason Curtis, Takeshi Inomata, Molly Morgan, Karla Cardona, Kazuo Aoyama and Hitoshi Yonenubu Late Holocene volcanic activity and environmental change in Highland Guatemala. *Quaternary Science Reviews* 191:378-392, 2018, 査読有. <https://doi.org/10.1016/j.quascirev.2018.05.014>
5. Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Melissa Burham, José Luis Ranchos, Kazuo Aoyama and Tsuyoshi Haraguchi Archaeological application of airborne LiDAR to examine social changes in the Ceibal region of the Maya lowlands. *PLOS ONE* 13(2): e0191619, 2018, 査読有.

- <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0191619>
6. 青山和夫「マヤ文明の地域間・遠距離交換の通時的研究—グアテマラ共和国セイバル遺跡の黒曜石製石器を中心に—」『古代文化』69(4):36-55, 2018, 査読有.
  7. Suzuki, Motoi Para el 'Renacimiento' de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de representacion museográfica. *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones* 2:245-251, 2018, 査読有.
  8. Sakai, Masato and Jorge Olano Pampa de Nasca 2000 años de actividad en los geoglifos. *El Top Anual De Los Grandes Descubrimientos del Perú* (Editorial TDP), 336-345, 2018, 査読無.
  9. Suzuki, Motoi La diversidad en la representación de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de la museografía. *Arte: memoria del 56o Congreso Internacional de Americanistas 3* (Ediciones Universidad de Salamanca), 256-258, 2018, 査読無.
  10. Ikezuki, Wataru Revalorización de la "Interculturalidad" en la relación entre el pasado y la diversidad cultural contemporánea de los indígenas en Ecuador. *Arte: Memoria del 56º Congreso Internacional de Americanistas* 3:413-417, 2018, 査読無.  
[http://dx.doi.org/10.14201/OAQ0251\\_3](http://dx.doi.org/10.14201/OAQ0251_3)
  11. Shakuya, Shigeki El patrimonio cultural y la naturaleza en la situación del turismo masivo: el caso de los parques arqueológicos en la parte norte del Caribe Mexicano. *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones* 1 (Universidad Megatrend), 339-344, 2018, 査読有.
  12. Kudo, Yumi La medicina mapuche en el ambiente urbano: un caso en Santiago de Chile. *América Latina y el mundo del siglo XXI: Percepciones, interpretaciones e interacciones* 2 (Universidad Megatrend), 345-351, 2018, 査読有.
  13. Honya, Yuko Crear la comunidad y el vínculo a través de los tejidos a mano: el caso de las mujeres indígenas de Guatemala. *Actas del 3er encuentro de textiles mesoamericanos* 3:158-168, 2018, 査読無.
  14. Yamashita, Taiji, Miyamoto Kenji and Yonenobu Hitoshi Short-time pretreatment of wood with low-concentration and room-temperature ionic liquid for SEM observation. *Microscopy* 67(5):259-265, 2018, 査読有.
  15. Aoyama, Kazuo Preclassic and Classic Maya Interregional and Long-Distance Exchange: A Diachronic Analysis of Obsidian Artifacts from Ceibal, Guatemala. *Latin American Antiquity* 28(2):213-231, 2017, 査読有. <https://doi.org/10.1017/laq.2017.2>
  16. Aoyama, Kazuo Ancient Maya Economy: Lithic Production and Exchange Around Ceibal, Guatemala. *Ancient Mesoamerica* 28(1):279-303, 2017, 査読有.  
<https://doi.org/10.1017/S0956536116000183>
  17. Aoyama, Kazuo El Intercambio de Obsidiana durante los Períodos Preclásico y Clásico en Ceibal, Guatemala. *XXX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, 949-959, 2017, 査読無
  18. Aoyama, Kazuo, Takeshi Inomata, Flory Pinzón and Juan Manuel Palomo The Development of Maya Civilization and Public Rituals of the Preclassic Maya: Polished Greenstone Celt Caches from Ceibal, Guatemala. *Antiquity* 91(357):701-717, 2017, 査読有. <https://doi.org/10.15184/aqy.2017.44>
  19. Aoyama, Kazuo, Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Flory Pinzón, Juan Manuel Palomo, Jessica MacLellan and Ashley Sharpe Early Maya Ritual Practices and Craft Production: Late Middle Preclassic Ritual Deposits Containing Obsidian Artifacts at Ceibal, Guatemala. *Journal of Field Archaeology* 42(5):408-422, 2017, 査読有. <https://doi.org/10.1080/00934690.2017.1355769>
  20. Inomata, Takeshi, Daniela Triadan and Kazuo Aoyama After 40 Years: Revisiting Ceibal to Investigate the Origins of Lowland Maya Civilization. *Ancient Mesoamerica* 28(1):187-201, 2017, 査読有. <https://doi.org/10.1017/S0956536117000037>
  21. Inomata, Takeshi, Flory Pinzón, José Luis Ranchos, Tsuyoshi Haraguchi, Hiroo Nasu, Juan Carlos Fernandez-Diaz, Kazuo Aoyama and Hitoshi Yonenobu Archaeological Application of Airborne LiDAR with Object-Based Vegetation, Classification and Visualization Techniques at the Lowland Maya Site of Ceibal, Guatemala. *Remote Sensing* 9(6):1-27, 2017, 査読有.  
<https://doi.org/10.3390/rs9060563>
  22. 青山和夫, 嘉幡茂, 市川彰, 長谷川悦夫, 福原弘織, 塚本憲一郎「メソアメリカ文明の通時的比較研究序論」『古代アメリカ』20:79-94, 2017, 査読有.
  23. 猪俣健, 青山和夫, フローリー・ピンソン, ホセ・ルイス・ランチョス, 原口強, 那須浩郎, 米延仁志「マヤ文明のセイバル遺跡と周辺部の航空レーザー測量と考古学調査」『古代アメリカ』20:123-134, 2017, 査読有.
  24. 青山和夫「特輯「古代アメリカの比較文明論の新展開」(下)に寄せて」『古代文化』69(1):61-62, 2017, 査読有.
  25. 青山和夫「特輯「古代アメリカの比較文明論の新展開」(上)に寄せて」『古代文化』68(4):55-57, 2017, 査読有.
  26. 青山和夫「先古典期マヤ文明の王権の起源と形成」『古代文化』68(4):58-65, 2017, 査読有.
  27. 鈴木紀「博物館の中のマヤ文明:表象と政治性」『古代文化』69(1):96-108, 2017, 査読有.
  28. 井上幸孝「植民地時代の先住民記録に見る先スペイン期の歴史像の形成」『古代文化』

- 69(1):84-95, 2017, 査読有.
29. 坂井正人「ナスカの地上絵と神殿:アンデス文明のイデオロギーと権力をめぐって」『古代文化』69(1):63-72, 2017, 査読有.
  30. 山本睦, 坂井正人, ホルヘ・オラーノ, 松本雄一「ペルー南海岸、ラ・ベンティーヤ遺跡の発掘調査」『古代アメリカ』20:95-106, 2017, 査読有.
  31. Inomata, Takeshi, Daniela Triadan, Jessica MacLellan, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Juan Manuel Palomo, Hitoshi Yonenobu, Flory Pinzón and Hiroo Nasu High-precision radiocarbon dating of political collapse and dynastic origins at the Maya site of Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 114(6): 1293-1298, 2017, 査読有.  
<https://doi.org/10.1073/pnas.1618022114>
  32. Sakai, Masato, Yoshimitsu Ccoyllo, Jorge Olano, Yuichi Matsumoto and Atsushi Yamamoto Avances del Proyecto de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca, Campaña 2014. *Actas del II Congreso Nacional de Arqueología* 2:31-35, 2017, 査読無.
  33. Tei, Shunsuke, Atsuko Sugimoto, Hitoshi Yonenobu, Yojiro Matsuura, Akira Osawa, Hisashi Sato, Junichi Fujinuma and Trofim Maximov Tree-ring analysis and modeling approaches yield contrary response of circumboreal forest productivity to climate change. *Global Change Biology* 23(12):5179-5188, 2017, 査読有.
  34. Aoyama, Kazuo La Manufactura de los Objetos de Concha y Lapidaria entre los Antiguos Mayas: Los Resultados del Análisis de Microhuellas de Uso sobre Artefactos Líticos con el Microscopio de Gran Alcance. *XXIX Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, 1031-1040, 2016, 査読無.
  35. 青山和夫「メソアメリカ比較文明論試論—古代アメリカの比較文明論の新展開に向けて—」『古代アメリカ』19:47-61, 2016, 査読有.
  36. Aoyama, Kazuo Warfare, Warriors, and Weapons. *Encyclopedia of the Ancient Maya* (Rowman & Littlefield), 376-379, 2016, 査読有.
  37. Sakai, Masato and Jorge Olano Resultados preliminares del Proyecto de Investigación Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca. *Actas del Primer Congreso Nacional de Arqueología* 1: 283-290, 2016, 査読有.
  38. Aoyama, Kazuo and Elizabeth Graham Ancient Maya Warfare: Exploring the Significance of Lithic Variation in Maya Weaponry. *Lithics: the Journal of the Lithic Studies Society* 36:5-17, 2015, 査読有. <http://journal.lithics.org/index.php/lithics/article/view/450/444>
  39. Aoyama, Kazuo Microwear Analysis of the Obsidian Macroblade. *Temple of the Night Sun: A Royal Tomb at El Diablo, Guatemala* (Precolumbian Mesoweb Press), 240-242, 2015, 査読有.
  40. 青山和夫「先古典期マヤ文明の宗教儀礼とものづくり—グアテマラのセイバル遺跡で先古典期中期に埋納された黒曜石製石器を中心に—」『古代アメリカ』18:41-63, 2015, 査読有.
  41. Inomata, Takeshi, Jessica MacLellan, Daniela Triadan, Melissa Burham, Kazuo Aoyama, Hiroo Nasu, Jessica Munson, Flory Pinzón and Hitoshi Yonenobu Co-existing Mobile Groups and Public Ceremonies at Ceibal, Guatemala. *Proceedings of the National Academy of Sciences* 112:4268-4273, 2015, 査読有. <https://doi.org/10.1073/pnas.1501212112>
  42. 青山和夫「マヤ文明の起源と公共祭祀—グアテマラ・セイバル遺跡の公共祭祀建築と緑色石製磨製石斧の供物を中心に—」『古代文化』67:53-72, 2015, 査読有.
  43. 鈴木紀「資源化される古代文明:遺跡の調査と活用に関わるアクター分析—序論」『古代アメリカ』18:95-102, 2015, 査読有.
  44. 杓谷茂樹「資源としての「古代都市チチェン・イツァ」—交叉するステークホルダーそれぞれの思惑と地元露店商」『古代アメリカ』18:117-130, 2015, 査読有.
  45. Zenno, Miho Los movimientos sociales de los habitantes originarios de una colonia residencial en la Ciudad de México. 『京都ラテンアメリカ研究所紀要』15:97-113, 2015, 査読有.
  46. Tei, Shunsuke, Yonenobu Hitoshi, Suzuki Shinya, Ohyama Motonari, Gotanda Katsuya, Nakagawa Takeshi and Sugimoto Atsuko Reconstructed July temperatures since AD 1800, based on a tree-ring chronology network in the Northwest Pacific region, and implied large-scale atmospheric-oceanic interaction. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 435:203-209, 2015, 査読有.
  47. Aoyama, Kazuo Symbolic and Ritual Dimensions of Exchange, Production, Use, and Deposition of Ancient Maya Obsidian Artifacts. *Obsidian Reflections: Symbolic Dimensions of Obsidian in Mesoamerica* (University Press of Colorado), 127-158, 2014, 査読有.
  48. Aoyama, Kazuo, Hitoshi Yonenobu, Takeshi Inomata, Kazuyoshi Yamada, Hiroo Nasu, Toshiyuki Fujiki, Yoshitsugu Shinozuka, Katsuya Gotanda and Yoshiharu Hoshino Investigaciones Arqueológicas y Paleoambientales en y alrededor de Ceibal, Petén, Guatemala. *XXVII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, 987-995, 2014, 査読無.
  49. 青山和夫, 米延仁志, 坂井正人, 鈴木紀「「古代アメリカの比較文明論」プロジェクトの目標と展望」『古代アメリカ』17:119-127, 2014, 査読有.
  50. 青山和夫「先古典期マヤ文明の遠距離交換と石器製作—グアテマラ共和国セイバル遺跡の先古典期中期の打製石器—」『考古学研究』61:83-94, 2014, 査読有.
  51. Inoue, Yukitaka Un análisis de dos Codices Techialoyan: Huixquilucan y Cuajimalpa. *Quaderni di*

[学会発表] (計 447 件) (うち国際 240 件、海外の招待講演 24 件)

1. Aoyama, Kazuo Estudio de la lítica maya: Los resultados del análisis de los artefactos líticos de Copán, Aguateca y Ceibal (1986-2018). Coloquio Internacional México-Japón: Las Sociedades Mesoamericanas y los Cambios Culturales en su Proceso Histórico (メキシコ国立自治大学、メキシコ市), 2018.
2. Aoyama, Kazuo La problemática y valoración del pasado de los Mayas: Un caso de estudio sobre el sitio arqueológico de Ceibal, Guatemala. 56 Congreso Internacional de Americanistas (サラマンカ大学、スペイン、サラマンカ市), 2018.
3. Suzuki, Motoi Para el “renacimiento” de las civilizaciones prehispánicas: un estudio comparativo de representación museográfica. XVIII Congreso de la Federación Internacional de Estudios sobre América Latina y el Caribe (FIEALC) (Megatrend University、セルビア、ベオグラード市), 2017.
4. Aoyama, Kazuo, Bárbara Arroyo and Henry Rodriguez El análisis de microhuellas de uso sobre artefactos líticos de obsidiana de Kaminaljuyu de los períodos Preclásico Tardío y Clásico Temprano, Guatemala. XXXI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala (グアテマラ国立考古学民族学博物館、グアテマラ市), 2017.
5. Graham, Elizabeth, Simon Martin and Kazuo Aoyama No solo comercio, sino también poder. 10 Congreso Internacional de Mayistas (Centro Estatal de Capacitación, Investigación y Difusión Humanística、メキシコ、イサマル市), 2016.
6. Sakai, Masato Los geoglifos: Rituales, Líneas vs. Figuras Biomórficas, Cronología. Simposio Internacional: Nasca. Vida, Muerte y Transformación en el Desierto (Museo de Arte de Lima、ペルー、リマ市), 2016.
7. Aoyama, Kazuo Rituales Públicos y la Producción Artesanal entre los Mayas del Preclásico Medio: un Estudio de Artefactos Líticos de Ceibal, Guatemala. Jornadas de Lítica Maya (メキシコ国立自治大学、メキシコ市), 2015.

[図書] (計 13 件)

1. Sakai, Masato, Jorge Olano and Hiraku Takahashi *Centros de Líneas y Cerámica en las Pampas de Nasca, Perú, hasta el año 2018*, 112頁, Yamagata University Press, 2019.
2. Stanton, Travis and Kenichiro Tsukamoto *Past in the Present: Introduction to Archaeology*, 274頁, Kendall Hunt Publishing Company, Dubuque, 2019.
3. 嘉幡茂『テオティワカン—「神々の都」の誕生と衰退—』, 202頁, 雄山閣, 2019.
4. 大城道則, 青山和夫, 関雄二『世界のピラミッド大事典』, 639頁, 終風社, 2018.
5. 市川彰『古代メソアメリカ周縁史—大都市の盛衰と大噴火のはざままで—』, 233頁, 溪水社, 2017.
6. 井上幸孝, 佐藤暢『人間と自然環境の世界誌—知の融合への試み』, 277頁, 専修大学出版局, 2017.
7. 青山和夫『マヤ文明を知る事典』, 336頁, 東京堂出版, 2015.

[その他]

ホームページ等

<http://dendro.naruto-u.ac.jp/csaac/>

<https://info.ibaraki.ac.jp/Profiles/5/0000403/profile.html>

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名: 米延 仁志 (YONENOBU Hitoshi)

所属研究機関名: 鳴門教育大学 部局名: 大学院学校教育研究科 職名: 教授

研究者番号: 20274277

研究分担者氏名: 坂井 正人 (SAKAI Masato)

所属研究機関名: 山形大学 部局名: 人文社会科学部 職名: 教授

研究者番号: 50292397

研究分担者氏名: 鈴木 紀 (SUZUKI Motoi)

所属研究機関名: 国立民族学博物館 部局名: 人類文明誌研究部 職名: 教授

研究者番号: 40282438

### (2)研究協力者(外部評価委員)

中川 毅 (NAKAGAWA Takeshi)、猪俣 健 (INOMATA Takeshi)、加藤 泰建 (KATO Yasutake)、小泉 潤二 (KOIZUMI Junji)